

○17番（植山利博君）

3番目に、霧島市の歯科保健についてであります。霧島市における歯科保健施策の現状と課題、将来展望についてお尋ねいたします。

○保健福祉部長（越口哲也君）

3問目の霧島市における歯科保健施策の現状等についてお答えします。歯・口腔の健康は、全身の健康の保持や増進を図るために必要であるばかりではなく、食べる喜びや話す楽しみを保つなど、生活の質を向上させる点からも重要です。このため、本市におきましては、健康増進計画である健康きりしま 21（第2次）に基づき、80歳まで自分の歯を20本以上保つことを目標とする8020運動の推進や生涯を通じたむし歯予防、歯周病予防など、市民の皆様の歯と口腔の健康の増進に取り組んでおります。このような中、本市歯科保健の課題と致しましては、1点目として、1歳6か月、3歳、12歳の定点調査において、むし歯のある子供の割合が全国平均よりも高いこと、2点目として、成人の歯周病検診の受診率が低く、40歳代で既に歯周病に罹患している方や歯を喪失している方の割合が増加していることが挙げられます。これらの課題解決のため、子供のむし歯予防対策につきましては、乳幼児歯科健診における歯磨きの習慣化に関する指導や定期的な歯科健診受診の勧奨、幼児期・学童期におけるフッ化物洗口事業の実施などを通じて、継続したむし歯予防対策に取り組んでいるところであり、成人の歯周病予防対策につきましては、歯周病が糖尿病等の全身疾患にも関係していること、喫煙が歯周病の危険因子であることなど、歯周病予防についての正しい知識を普及啓発するとともに、受診率向上のために受診勧奨などに取り組んでおります。今後におきましても、市民の皆様の生涯を通じた歯・口腔の健康増進を図るため、歯科医師会、医師会及び薬剤師会等の関係機関との連携を図りながら、歯科保健事業を推進してまいりたいと存じます。

○17番（植山利博君）

歯科医師会と議員と語り合いを行いました。歯科医師会の先生方が15名でしたか、来られていろいろ意見交換をしました。私はオブザーバーという形で傍聴をしていたわけですが、感想を言いますと、先生方の歯科医師としてのモラルの高さといいますか、非常に感心をしたところです。専門用語でオーラルフレイルということを目指しているんだと、ある先生の話がありました。要するに口腔内の機能の軽微な低下や食の偏りが、健康寿命に影響をするんだと。だから、先ほど出ました8020運動は、相当達成してきていると。それは、市にしても学童にしても、そういう取組、意識啓発ができてきたんだと。そのことが、全体の医療費の引下げにも貢献するんだと。だから、1本も虫歯がないような子供たちを育てたいんだという非常にそういう意識が高かったと。そのことが健康寿命の延伸につながって、元気な高齢者をつくることになるんだというようなお気持ちを聴かせていただきました。そのためには、学童期の虫歯をどう防ぐかということは、非常に重要だというふうに感じたわけです。これまでもフッ化物洗口のこと、いろいろと議論があるところですが、学者の先生方にも様々な御意見があって当然だと思いますけれども、市長は、今回あえて、フッ化物洗口はこれからも推進しますという一言を施政方針に入れておられますけれども、その思いは変わりませんか。

○市長（前田終止君）

この件につきましては、この議場でもそれぞれの立場でそれぞれの御議論が今日までにあったところでございます。私自身も、この件に関して係の者たちと勉強しながらも分からない範囲も多いわけでございますが、今日まで県内外というよりも国内外で出ているような様々な情報等も少しずつ勉強もさせていただきまして、そして全体としての私たちのまちの在り方を判断させていただき、今日に至っているところでございます。それについては、そう判断をさせていただいた以上は、いろいろな御指摘がありますけれども、これは肅々としっかりと事故のない、また将来を見通した一つの方向性として、今後とも堅持して努力をさせていただきたいと存じているところでございます。

○17番（植山利博君）

聴くところによりますと、新潟県が先進地だというふうに聞いておりますけれども、新潟県のこの間の取組は、どれくらいされていて、その結果としてどのような状況になっているのか、分かればお示しいただきたいと思えます。

○健康増進課長（林 康治君）

新潟県の取組につきまして御答弁いたします。新潟県におきましては、昭和 50 年度から県を挙げてフッ化物洗口事業の推進に努められ、昭和 55 年度は 12 歳児の一人平均虫歯数が 5.2 本でありましたが、フッ化物洗口事業を進めていった結果、平成 27 年度には 0.46 本と 10 分の 1 程度に減少している状況でございます。また、虫歯の全くない児童の割合につきましては 80.1%ということで、16 年連続日本一虫歯が少ない県となっているところでございます。

○17番（植山利博君）

その間、フッ化物洗口による障害とか被害とか事故とかという事例は、どのようになっていますか。

○健康増進課長（林 康治君）

副反応とか気分が悪くなったとか、そのような事故とかは特に報告されていない状況でございます。

○17番（植山利博君）

これまでのやり取りを聞いていまして、保護者には説明した上で強制ではないと。いろいろな方の御意見がありますので、その辺は保護者にも十分説明した上で、保護者の理解を得ながら進めていただければいいのかなと、私個人はそういう見解を持っております。幾ら優れた薬でも限度を超えて服用すれば副作用が出るわけです。人によっては、レントゲンは絶対撮ったらだめだと。撮らないほうが寿命が伸びるんだというようなことを言う学者もいるやに聞いております。そこはいろいろな方の御意見を参考としながら、専門家の声に十分耳を傾けて、また保護者の意向も尊重されながら進めていただければと思います。いずれにいたしましても、歯の健康、口腔内の健康というのは、一生で非常に重要なことでありますので、青年、高齢者を含めて歯の健康に対する啓発を行うような取組を続けて欲しいと思えます。